

THE A MUSEUM

Vol.6-3 第18号 2012.3.1

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



-特別展-

大名と藩

天下泰平の立役者たち

北武蔵のお殿様、
夢の初共演。

平成24年 3月20日 火・祝 ▶ 5月6日 日

休館日 月曜日 (4月30日は開館) 時間 9:00~16:30 (観覧受付は16:00まで)

観覧料 一般600円、高校生・学生300円 (中学生以下と65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は無料)

【主催】 埼玉県立歴史と民俗の博物館
【後援】 埼玉県歴史と民俗の博物館 / FM NACK5 / 埼玉新聞社 / 産経新聞さいたま編集局 / テレビ埼玉 / 東京新聞さいたま支局 / 日本経済新聞さいたま支局 / NHKさいたま放送局 / 朝日新聞さいたま支局 / 読売新聞さいたま支局

埼玉県立 歴史と民俗の博物館 〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219 TEL 048-645-8171 URL <http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

現在の埼玉県域は、かつて「武蔵国」と呼ばれる領域の北部に位置していました。今から約430年前、徳川家康が関東の支配を開始してのち、廃藩置県が実施されるまでの約290年の間、この北武蔵の地には、大名の支配する「藩」が置かれました。

川越・忍・岩槻の3藩には、江戸時代を通じて多くの大名が封ぜられ、その数は合計21家61代に上ります。かれらは、江戸にほど近い川越・忍・

岩槻3城の守りを固めるとともに、老中など幕府の要職を歴任して将軍を支えました。江戸時代という泰平の世の、まさに立役者であったと言えるでしょう。

本展では、これら3藩やその歴代大名家に関する、名品・重要資料が一堂に会します。さらに、あまり知られていない岡部落や久喜藩についても紹介し、県域に存在した大名と藩について、その全貌を明らかにします。

プロローグ 徳川家康の関東入国

天正18年(1590)、豊臣秀吉は、戦国時代の関東地方に覇を唱えた後北条氏を攻め、これを滅ぼしました。そして徳川家康に対し、後北条氏の支配していた関東地方への領地替えを命じます。

命令を受けた家康は、先祖伝来の地である三河などを離れて江戸へ入り、後北条氏時代の支城を利用しつつ、関東の支配を開始します。

展示資料：けんぱんちやくしやくとうしやくごんげんざう絹本着色東照権現像(川越市立博物館)、豊臣秀吉朱印状(当館)ほか

第1章 泰平の世へ

徳川家康による関東支配の基本方針は、江戸を中心として、直轄の領地、中下級家臣の領地、上級家臣の領地を同心円状に配置するものでした。これは、軍事的緊張が続く状況のなかで、佐竹氏や里見氏といった周辺の諸大名に対する備えの役割を果たすものであった、と考えられます。

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いに勝利した家康は、戦後処理として家臣らの加増転封を行います。この処置ののち、城主不在となった諸城は順次廃止されていき、北武蔵には川越・忍・岩槻の3城が残されることとなりました。

展示資料：もえぎおとしつみかわにまいどうぐまく萌黄威包章二枚胴具足・徳川秀忠朱印状(個人)、関ヶ原合戦絵巻(当館)ほか



川越藩主松平大和守家より拝領の硯箱(財山崎美術館)

第2章 北武蔵の大名と藩

江戸の近隣に位置する北武蔵の諸藩には、江戸時代を通じて多くの大名が封ぜられました。その数は実に、川越藩8家21代、忍藩4家16代、岩槻藩9家24代にも上ります。このなかには徳川氏一門も含まれましたが、多くは譜代の大名たちでした。

譜代大名は、全国の要地に配置され、幕閣の職を独占するなど、幕府における非常に重要な役割を果たした人々でした。

岡部藩・久喜藩も、それぞれ安部家・米津家を藩主とし、榛沢郡岡部(現深谷市)・埼玉郡久喜(現久喜市)に陣屋を構えた譜代藩です。

本章では、これら5藩の大名23家を一挙に紹介します。

展示資料：かんえいしよかけいずでん寛永諸家系図伝(日光東照宮)、こしら つきたち拵え付太刀ながよしやく長吉作(三芳野神社)、ばいていどうじ おまもりづつ梅貞童子の御守筒(正覚寺)、おのおかたみつもくぞう大岡忠光木像(龍門寺)、あんべ のぶともゆいごんじょう安部信友遺言状(当館)ほか



忍藩主阿部忠秋所用の陣羽織(白河集古苑)



久喜藩主米津家邸の鬼瓦(龍ヶ崎市歴史民俗資料館)

第3章 大名道具の世界

大名家に代々伝えられた宝物、大名家で使われた道具類は、「大名道具」と総称されます。本章では、刀剣・甲冑・調度品・書跡など、北武蔵の殿様たちゆかりの大名道具を一堂に展示し、その洗練された美意識に迫ります。

展示資料：太刀 銘定利（東京国立博物館）、梅樹薫
紋蒔絵膳具（恵林寺）、黒糸威二枚胴具足（忍東照宮）、
蠟鈿鞍（久伊豆神社）ほか

エピローグ 藩の終焉

慶応3年（1867）、江戸幕府は終末を迎えました。新たに生まれた明治政府のもと、「藩」が地方行政区画の公称として初めて採用されます。

明治2年（1869）には版籍奉還が実施され、藩政府と、旧藩主である知藩事の家が分離されることとなりました。さらに明治4年には、廃藩置県が断行されます。中央集権国家の誕生です。

こうして、川越・忍・岩槻3藩も名実ともに廃止となり、中世以来存続した3城も、ついに破却されることとなりました。

展示資料：川越藩知事免官辞令（光西寺）、埼玉県印（埼玉県立文書館）、葵紋釘隠（長久寺）ほか



岩槻藩主大岡忠光所用の甲冑（龍門寺）

関連事業

(1) 記念講演会

講師：根岸茂夫氏（國學院大學文学部教授）

演題：「関東の譜代藩と城」

日時：4月22日（日）午後1時30分～3時

会場・定員：当館講堂・150名

申込：①往復はがき、②埼玉県電子申請

※4月1日（日）締切（当日消印有効）

応募多数の際は4月4日（水）に公開抽選

(2) 歴史ウォーキング「城と城下町を歩く」

第1回 川越（共催：川越市立博物館）

日時：3月7日（水）午前10時30分～午後3時

第2回 忍（共催：行田市郷土博物館）

日時：4月14日（土）午前10時30分～午後3時

第3回 岩槻（後援：さいたま市教育委員会）

日時：4月28日（土）午前10時30分～午後3時

対象・定員：一般・各30名

参加費：各100円（保険料）

申込：ご好評につき申込を締め切りました

(3) 古武道演武会

主催：真楊会、劍聖中山博道先生伝承武術保存
会、埼玉杖神会

共催：当館

日時：5月4日（金）午後1時30分～3時30分

会場：当館屋外ステージ（雨天の場合は当館講堂）

演武流派：甲源一刀流劍術（川越・忍・岡部藩）

楊心流柔術（天神真楊流柔術、忍藩）

神道夢想流杖術（福岡藩）ほか

(4) 体験学習「鎧を体感してみよう」

日時：5月5日（土）午前10～12時、午後1～3時

会場：当館屋外ステージ

（雨天の場合は当館ゆめ・体験ひろば）

対象・定員：子供・20名

申込：不要。当日午前9時より受付（先着順）

(5) 展示解説

日時：3月20日（火）、24日（土）、4月1日（日）、

7日（土）、15日（日）、21日（土）、29日

（日）、5月6日（日） 各々午後1時30

分から

（特別展示担当 根ヶ山泰史）

「弥生時代復元住居の整備」について

歴史と民俗の博物館の入口を入って右手に、弥生時代の竪穴住居跡の上屋を復元した「復元住居」があります。

ここには、現在「大宮公園内遺跡」という名称で呼ばれる遺跡が所在しています。昭和27(1952)年に県営プール建設の事前調査で縄文時代・弥生時代の竪穴住居跡が発掘されたことによって遺跡の所在が明らかになりました。

昭和30(1955)年に埼玉考古学会が大宮郷土会や大宮市立東中学校・北中学校の協力を得て調査を実施したのが、当館の範囲に関係する調査の最初のものでしたようです。このときには、現在「^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓」が所在している部分が調査され、竪穴住居跡1軒と、四角くめぐる溝跡が発見されました。この2つの遺構は「周濠と土堤のある住居跡」として一体のものとして考えられていたようです。

このときの調査成果にもとづいて、竪穴住居と高床倉庫が復元され、昭和40(1965)年前後まで立っていたようです。

その後、当館の前身である「埼玉県立博物館」が建設されることになり、昭和44(1969)年に博物館建設予定地全面を対象にした発掘調査が実施されました。建設予定地の北寄りの部分からは住居跡のような遺構の存在は確認されませんでした。南寄りである、現在の正門の東側から「ゆめ体験ひろば」の「昭和の原っぱ」あたりにかけての区域から縄文時代中期の住居跡3軒、縄文時代後期の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡3軒などが確認されました。

現在の復元住居は、正門に近い位置の弥生時代後期の住居跡と、その東南東約15メートルの位置にある縄文時代中期の住居跡の2か所に設置してあります。博物館の竣工時期の昭和46(1971)年が復元住居の完成時期でもあります。

本年度は当館の開館40周年ですが、復元住居

も同じく40年の歳月を経過しています。

これまでの間、カヤの葺き替えや一部の部材の補強工事のような、部分的な修繕の手を施してはいますが、ここ十年くらいに間に全体の構造の老朽化による損傷が目立つようになってきており、根本的な修繕が必要になってきました。

平成22年度になって、国からの交付金をいただいて博物館の活性化のための事業をおこそうという運びとなり、「歴史と民俗の博物館リフレッシュ事業」という事業の一環として、全面的な建替えができることになりました。

建替え工事に関しては、平成24年1月から3月にかけて実施することが決まりましたので、特別展「大名と藩」のオープンの前後くらいには、新しく建替えが完成した復元住居の姿をみなさんにご覧いただけるのではないかと考えております。

この工事の完成予定時期に近い3月18日(日)には関連する講座として、歴史民俗講座「弥生時代のすまいとくらしー復元住居に関連してー」を開催いたします。弥生時代から古墳時代の住居の構造や当時の古人たちの日常生活について解説することになっています。

あわせてお楽しみいただければ幸いです。

(常設展示担当 利根川章彦)



大宮公園内遺跡出土 弥生土器(壺)

リニューアルしました！～大規模改修工事を終えて

当館は昭和46年に開館し、今年度40周年を迎えることができました。40歳にもなると、人間の体もあちらこちらに不具合が生じますが、博物館の施設・設備も老朽化が著しく目立っていました。そのために実施してきた大規模改修工事が平成22年度までに終了しました。

1 第Ⅰ期工事

平成19年度は耐震補強、展示棟外壁改修、給排水設備改修などを行いました。これまでアンケートでも「暗い」「汚い」と不評だったトイレが、全館乾式、暖房・洗浄機能付き便座となるとともに、バリアフリー対応のトイレを整備するなど、明るく清潔なスペースとなりました。



(みんなのトイレ)

2 第Ⅱ期工事

平成21年度は、空調設備改修、受変電設備改修工事などを実施しました。空調設備改修の結果、新たに設置した氷蓄熱槽に、割安な深夜料金で氷や温水をつくり、それを利用して昼間に冷暖房運転を行うことができるようになりました。改修前の平成20年度と改修後の平成23年度の光熱水費を4～12月期で比較すると、およそ25.8%も節約することができました。



(氷蓄熱槽など)

3 第Ⅲ期工事

平成22年度には総仕上げとして、照明設備の更新、火災報知設備の更新、管理棟外壁改修、非常用発電機更新工事などを実施しました。

照明設備では、美術展示室や特別展示室の照明を更新し、よりきめ細やかに調光できるようになりました。また、階段昇降機を新設し、既存



(階段昇降機)

のエレベーターとあわせて全館バリアフリー化することができました。

これまで度重なる工事休館により、ご利用のお客様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

リニューアルした当館へたくさんのお客様がお運びくださるよう、職員一同お待ち申し上げております。

(施設担当 矢部隼和)

歴史のしおり 「宮中の官女から農家の女性に - 左義長羽子板の変容 -」

当館では、県指定有形民俗文化財である「押絵羽子板面相師関係資料」をはじめとして、羽子板に関わる膨大な資料を所蔵しています。

羽子板はもともと宮中や貴族の間で広まり、後世になって民間に受け入れられたとされ、この羽子板の古い形を伝えているのが「左義長羽子板」と呼ばれるものです。

左義長とは、かつて1月15日と18日に宮中で行った火祭りを中心とする正月行事で、庭に青竹や毬杖を組み束ねて立て、短冊や扇子を結び、これに火をつけて周囲を囃して廻り、踊ったといわれます。毬杖は木製の毬を杖で打つ屋外の正月遊びで、この毬杖を3本組んでつくったことから「三毬杖」の名がつけられました。

この様子を描いた羽子板は、貴族の間で正月の縁起物として贈答の品とされました。

両面とも金箔の雲形や意匠を凝らした極彩色の絢爛豪華な羽子板で、表面には公家の男女が子供を交えて御殿から左義長を眺める様子が、裏面に



は庭の左義長の様子が描かれています。

やがてこれが民間にも流布し、各地に広まるにつれて、この図柄は単なる宴遊風景にとらえられ、羽子板の主題が左義長から上流社会の主人・奥方と子供たちの絵となりました。近世後期に山東京伝が著した「骨董集」にも、「とのさまかみさまの絵」という言葉が載せられています。

さらにその土地独特の羽子板も誕生しました。多くは公家や女官の姿の面影を残しながら次第に崩れていき、最後には何を描いているのかわからなくなっているものもあります。

こうした羽子板は後に郷土羽子板と呼ばれ、関東から東北にかけて多く残されていましたが、昭和初期までにはほとんどが姿を消しました。

すでに本来の意味は忘れられ、公家や官女は人々の暮らしのなかで、直接見る機会の多い雛人形と重なり、雛壇飾りに変化しているものもあります。多くが三段に描かれているのもその影響かもしれません。特に内裏雛の男女だけを描いたものは、夫婦の祝言の様子となっています。大勢の子女が描かれたことから、年頭にあって縁起の良い、子孫繁栄を祈る絵としても人々に受け入れられていったようです。

ここで紹介するのは、群馬県桐生に伝えられた郷土羽子板を復元したものです。二段目と三段目の女性は、繭や蚕と桑の葉とともにあることから、養蚕風景を描いたとみられます。いかにも織物の町らしい変化で、色鮮やかで気品を保っています。裏面には目出度い蓬莱山が描かれています。

宮廷の官女は、とうとう蚕を育てる農家の女性となりました。もちろん、国の母としての皇后が蚕を育てるといふ信仰も背景にあったのですが、当地で盛んな養蚕豊饒の願いをこめたことで人々に長く受け入れられたのでしょう。

(常設展示担当 三田村佳子)

江戸時代を通じて発展した木版画技術は、目を疑うような鮮やかな浮世絵版画を、誰でも買える低価格で提供しました。それを開国直後の日本を訪れた西洋人が祖国へのお土産に買って帰り、19世紀、西洋でのジャポニスムブームの引き金になります。

世界で広く知られる浮世絵版画は、画家一人の力によるものではなく、彫師と摺師、そして版元という発行元兼プロデューサーの力なくしてなりたちません。浮世絵版画は、画家の独り舞台ではなく、各職人たちが各役割を最大限に果たしたコラボレーションの結果ともいえます。

そして、連綿と続いた木版画から、1915年、絵師・彫師・摺師・版元の4者の協業システムを保ちつつ、新たな木版画をめざした芸術運動、いわゆる「新版画」が誕生しました。「新版画」は、版元 渡邊庄三郎 (1885~1962) が始め、高橋松亭や橋口五葉、伊東深水などの画家とともに制作されました。彼らは、当時の社会・風俗を描くだけでなく、色版を何度も摺ることで、水彩画のような色調豊かな木版画に成功しました。その版元 渡邊庄三郎のもとで、風景版画を制作したのが川瀬巴水 (1883~1957) です。

巴水は「昭和の広重」とも呼ばれ、日本中をスケッチして歩きました。その活躍期は1918年から没年の1957年まで、おおよそ40年に及びます。踏破した地は、北は北海道、南は鹿児島にまで至り、朝鮮半島の平壤や金剛山まで描いています。

彼の「日記」によれば、巴水は、時折、埼玉県下を旅し、スケッチしました。その一つに、さいたま市の見沼を描いた「大宮見沼川」があります。すっかり夜が更けた見沼代用水のほとり、川の向こうには一軒の民家の明かりがとまり、そのこぼれる光は川面に映っています。真っ暗な辺りには、小さな無数の光源、つまり蛍がまたたいています。まさに見沼の夏の情景です。

「大宮見沼川」は、江戸時代ではまず作られることのなかった、真っ黒で控えめな色調の木版画です。しかし、その暗色ゆえに家屋や蛍の光が際

立ち、静かな夏の夜を見事に表現しています。本作のように、同系色で統一しつつも、対比的な色彩を加えた、ドラマチックな演出は、巴水作品にしばしば見受けられます。そして、その暗闇の色彩にも注目すべきでしょう。幾重にも色を重ね、微妙な色調を表し、暗いながらに、見沼の風景をよく再現しています。この豊かで繊細な色調こそ「新版画」の真骨頂です。

現代社会の都心では、本作のように、真っ暗な夜景は、ほぼ皆無といってよいでしょう。そして、星や蛍が輝き、人家の光が川に映る様子に情緒を感じる、そのような風情はどこへいってしまったのでしょうか。昭和前期の懐かしい風景を描いた川瀬巴水「大宮見沼川」は、まさに埼玉の原風景といえます。

「日記」によれば、本作が制作された前年の1929 (昭和4)年11月に、巴水は大宮や見沼を訪れています。11月ということは、蛍はいない季節。仮に、この時のスケッチをもとに本作を制作したのであれば、蛍の光は巴水たちの演出ということになりましょう。見沼の夜景に蛍を加えようと相談している彼らの声が、画面の暗闇の中に隠れているようにも思えます。(常設展示担当 浦木賢治)



川瀬巴水「大宮見沼川」木版多色摺 1930(昭和5)年 当館蔵

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（3月～5月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

◆ 3月

- 3日(土) 博物館裏方探検隊
- 4日(日) 特別体験メニュー「オリジナル藍の型染め布作り(中級)」
- 7日(水) 歴史ウォーキング「城と城下町を歩く」(川越)
- 10日(土) ミュージアムトーク
博物館裏方探検隊
- 11日(日) 特別体験メニュー「オリジナル藍の型染め布作り(中級)」
- 18日(日) 歴史民俗講座「弥生時代のすまいとくらしー復元住居に関連してー」
- 20日(火・祝) 特別展「大名と藩」オープン
特別展「大名と藩」展示解説
- 24日(土) 博物館春まつり「ベーゴマ大会」
特別展「大名と藩」展示解説
博物館裏方探検隊
- 25日(日) 博物館春まつり「ボン菓子実演」
- 27日(火) 特別体験「ベーゴマ作り」
- 31日(土) 博物館裏方探検隊

◆ 4月

- 1日(日) 特別展「大名と藩」展示解説
- 7日(土) 特別展「大名と藩」展示解説
博物館裏方探検隊
- 14日(土) 歴史ウォーキング「城と城下町を歩く」(忍)
特別体験「十二単の着装」

- 14日(土) 博物館裏方探検隊
- 15日(日) 特別展「大名と藩」展示解説
ミュージアムトーク
- 21日(土) 特別展「大名と藩」展示解説
博物館裏方探検隊
- 22日(日) 特別展記念講演会「関東の譜代藩と城」
講師：根岸茂夫氏
(國學院大學文学部教授)
- 28日(土) 歴史ウォーキング「城と城下町を歩く」(岩槻)
博物館裏方探検隊
- 29日(日) 特別展「大名と藩」展示解説

◆ 5月

- 3日(木・祝) 博物館子どもまつり「射的遊び」
博物館裏方探検隊
- 4日(金・祝) 古武道演武会
(主催：真楊会他・共催：当館)
博物館裏方探検隊
- 5日(土) 体験学習「鎧を体感してみよう」
博物館裏方探検隊
- 6日(日) 特別展「大名と藩」最終日・展示解説
ミュージアムトーク
- 12日(土) 新収集品展 ～6/17日(日)
博物館裏方探検隊
- 19日(土) 博物館裏方探検隊
- 20日(日) ミュージアムトーク
- 24日(木) 特別体験メニュー「オリジナル藍の型染めエコバック作り」
- 26日(土) 博物館裏方探検隊

博物館への資料寄贈をお考えの方へ

先ず電話で資料調査担当にご一報下さい

詳しくは博物館ホームページ [資料寄贈についてのお知らせ](#) をご覧下さい。



交通機関
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

40th Anniversary

埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

(編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL. 048-641-0890 (管理)

048-645-8171 (学芸)

FAX. 048-640-1964

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより

Vol.6-3 (通巻) 第18号

2012年3月1日発行